

# 2026年3月期 決算説明資料 トレーダースホールディングス株式会社

証券コード：8704  
2026年4月30日



JPX-NIKKEI Mid Small



金融を、もっと面白く。

## Point 1

### 市場環境

歴史的な為替相場変動局面が追い風となった前期とは対照的に、**当期は年間通じてボラティリティが低下し、長期のレンジ相場を形成**

## Point 2

### 業績

第3四半期決算で通期見通しを下方修正したものの、**実績は前期の過去最高収益に2億円差まで追い上げ。営業利益は61億円強を確保** 👉 減少率は僅かにとどまる

## Point 3

### 要因

預り資産は**当初計画を上回る増加を達成**  
**追い風が少ない状態で過去最高レベルに到達する収益基盤**

- 1 2026年3月期 業績ハイライト**
- 2 2027年3月期（中期経営計画3期目）  
通期連結業績予想**
- 3 2027年3月期の施策**
- 4 株主還元**
- 5 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応**
- 6 Appendix**

金融を、もっと面白く。



# 2026年3月期 業績ハイライト

# 2026年3月期 エグゼクティブサマリー

金融を、もっと面白く。



- ✓ 預り資産増加額は**当社過去最高の210億円**、**業界トップ**の年間増加額を達成
- ✓ 収益基盤が一層厚くなり、営業収益は**過去最高であった前期と同水準を確保**
- ✓ 特に**第4四半期は過去最高の四半期収益を達成**し、通期営業収益で上方再修正

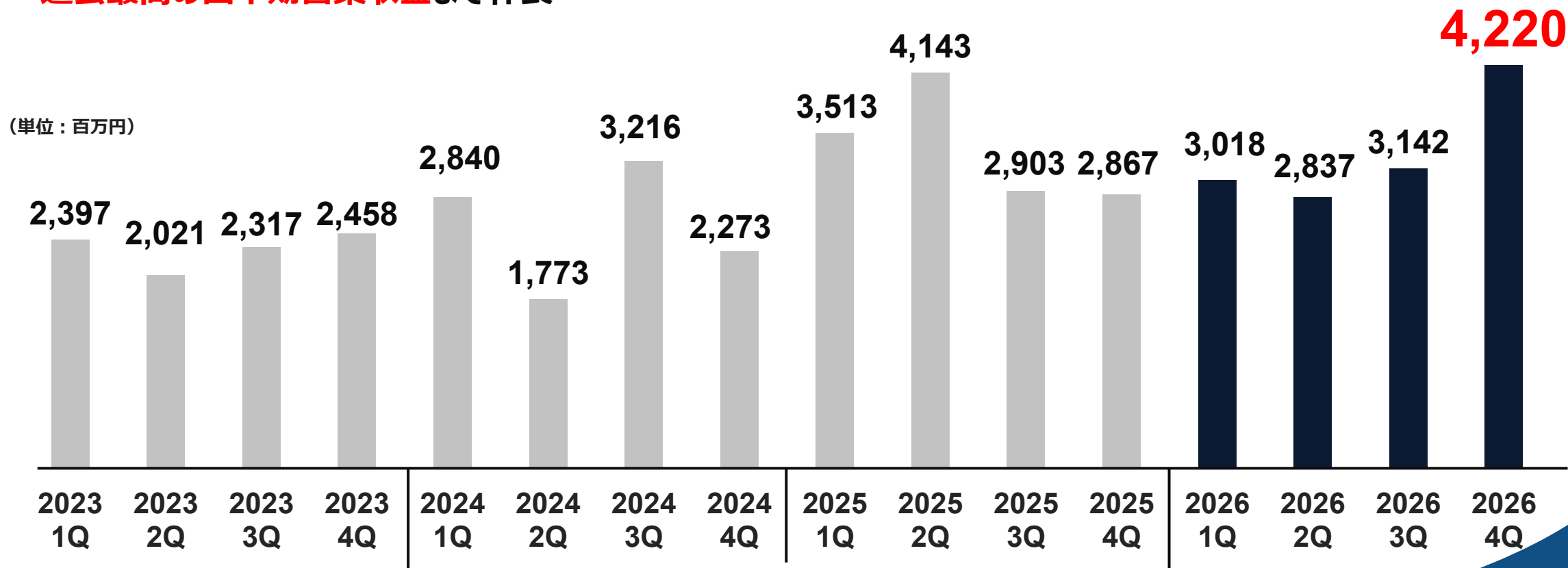
	2025年3月期	2026年3月期	前期比	
営業収益	13,429 百万円	<b>13,218</b> 百万円	<b>▲ 1.6 %</b>	
営業利益	6,634 百万円	<b>6,161</b> 百万円	<b>▲ 7.1 %</b>	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,547 百万円	<b>4,244</b> 百万円	<b>▲ 6.7 %</b>	
預り資産	1,122 億円 (2025年3月期末)	<b>1,332</b> 億円	前期比増減 <b>+ 210</b> 億円	

# 業績推移（営業収益）

金融を、もっと面白く。



- ✓ 当第4四半期は、預り資産・顧客建玉・有効証拠金の積み上がりを背景に、1月のニューヨーク連銀による「レートチェック」観測を要因とした介入警戒感の高まりや2月の衆院選後の与党大勝に伴う政権安定への期待高まり、米国によるイラン攻撃などによる高いボラティリティ環境を捉え取引が拡大し、前期第2四半期を抜き、**過去最高の四半期営業収益**まで伸長



# 【補足説明】過去3年分のドル/円チャート推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 過去2期間では、四半期ごとのドル/円の値幅はいずれも10円以上で推移していたのに対し、当期は第2～第4四半期において値幅が10円以下に縮小し、狭いレンジが継続
- ✓ 第4四半期は複数のイベントを背景に一時的な変動が見られたものの、相場の値幅は総じて限定的にとどまった



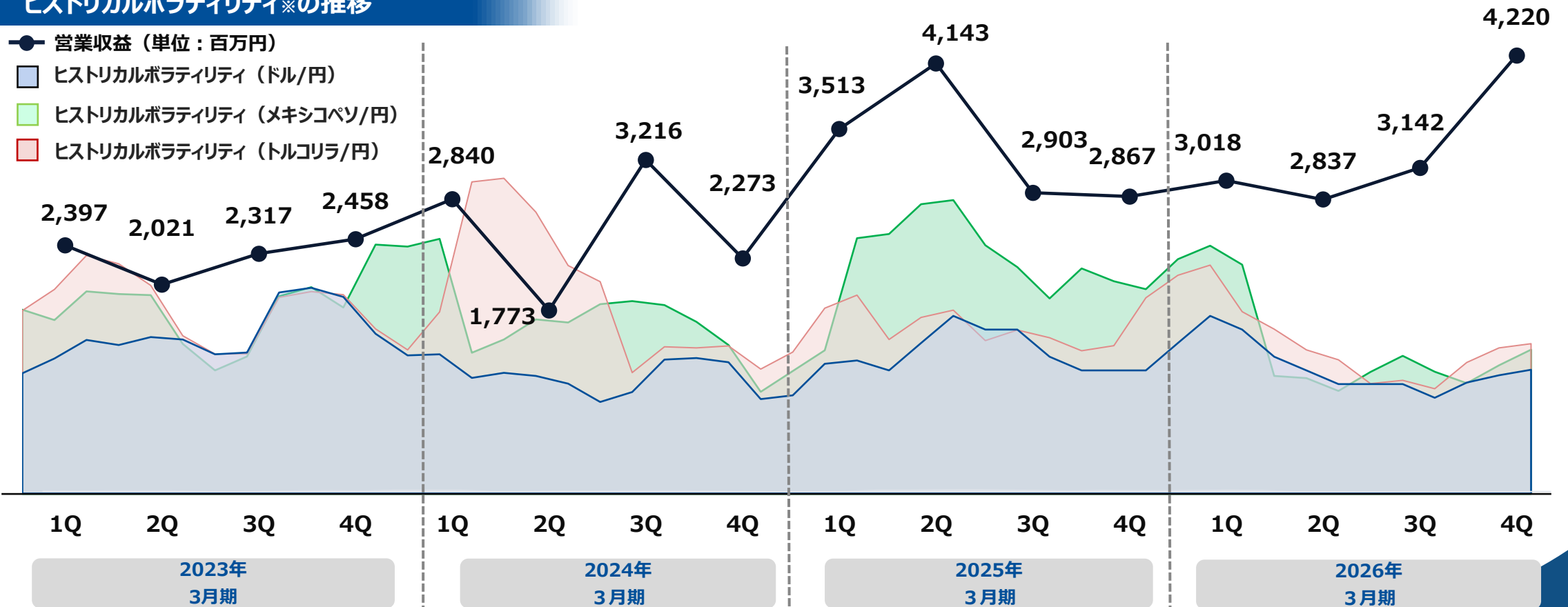
# 【補足説明】 2026年3月期 市況概況

金融を、もっと面白く。



- ✓ 第4四半期では米ドル、メキシコペソ、トルコリラに関して若干のボラティリティ増加が見られた
- ✓ 特に当社収益において一定の比重を占めるトルコリラにおいては、米国によるイラン攻撃に伴う地政学的リスクの高まりを背景に、相対的に影響を受けやすく、ボラティリティが上昇

## ヒストリカルボラティリティ※の推移



※ヒストリカルボラティリティとは、テクニカル分析手法の一つで、過去のデータに基づいて統計的に算出した価格の変動率のこと。  
 過去の価格変動が小さければ、ヒストリカルボラティリティは小さくなり、過去の価格変動が大きければ、ヒストリカルボラティリティも大きくなる。  
 上図では四半期会計期間である過去60日の値動きデータに基づき計算。

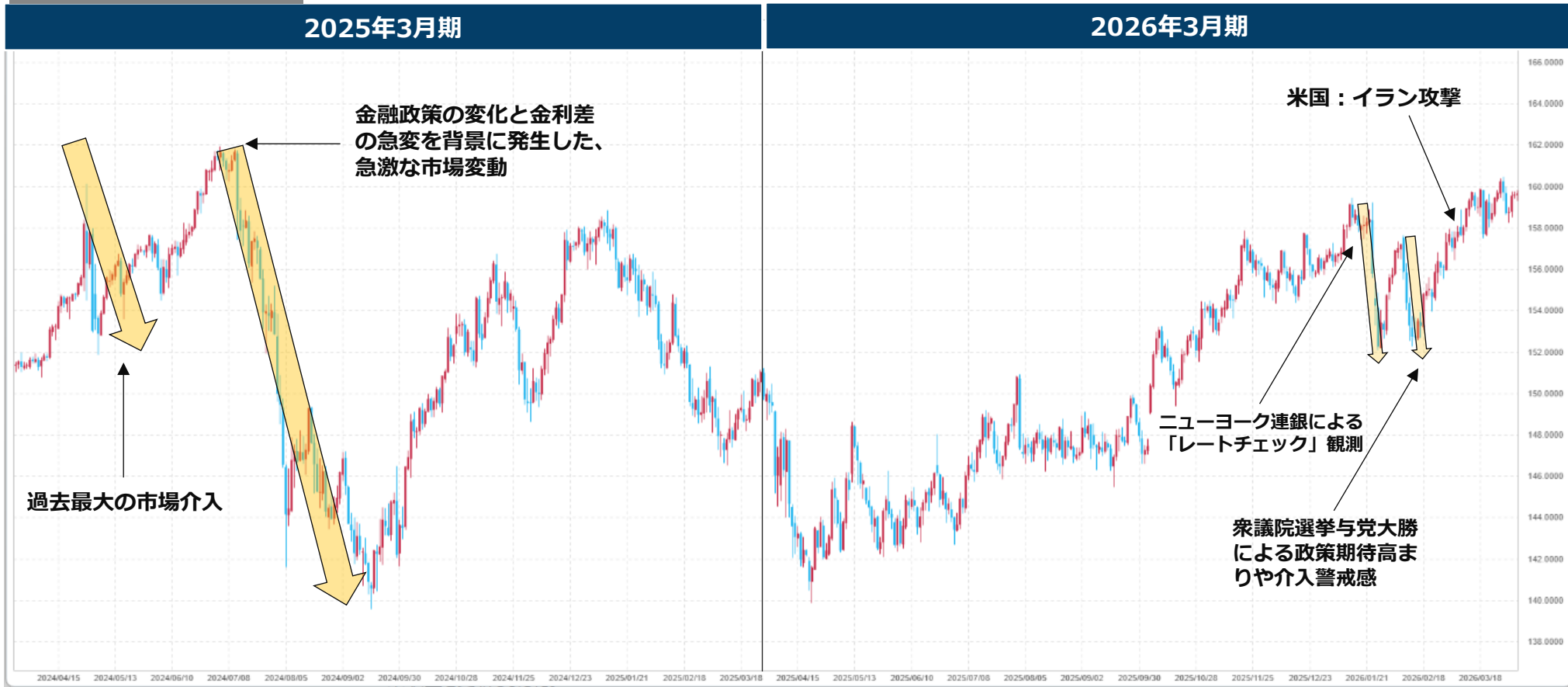
# 【補足説明】過去2年分のドル/円チャート推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 前期は、日銀による過去最大規模の市場介入や8月の株式市場の調整等により為替相場が大きく変動し、当時の過去最高となる営業収益を記録
- ✓ 当期は、第1～第3四半期において落ち着いた相場環境のもとレンジ相場が継続 第4四半期は各種イベントが発生 影響は前期第2四半期に比べ限定的にとどまる中、預り資産の積み上がりを背景に過去最高の営業収益を更新

USDJPY (日足チャート)

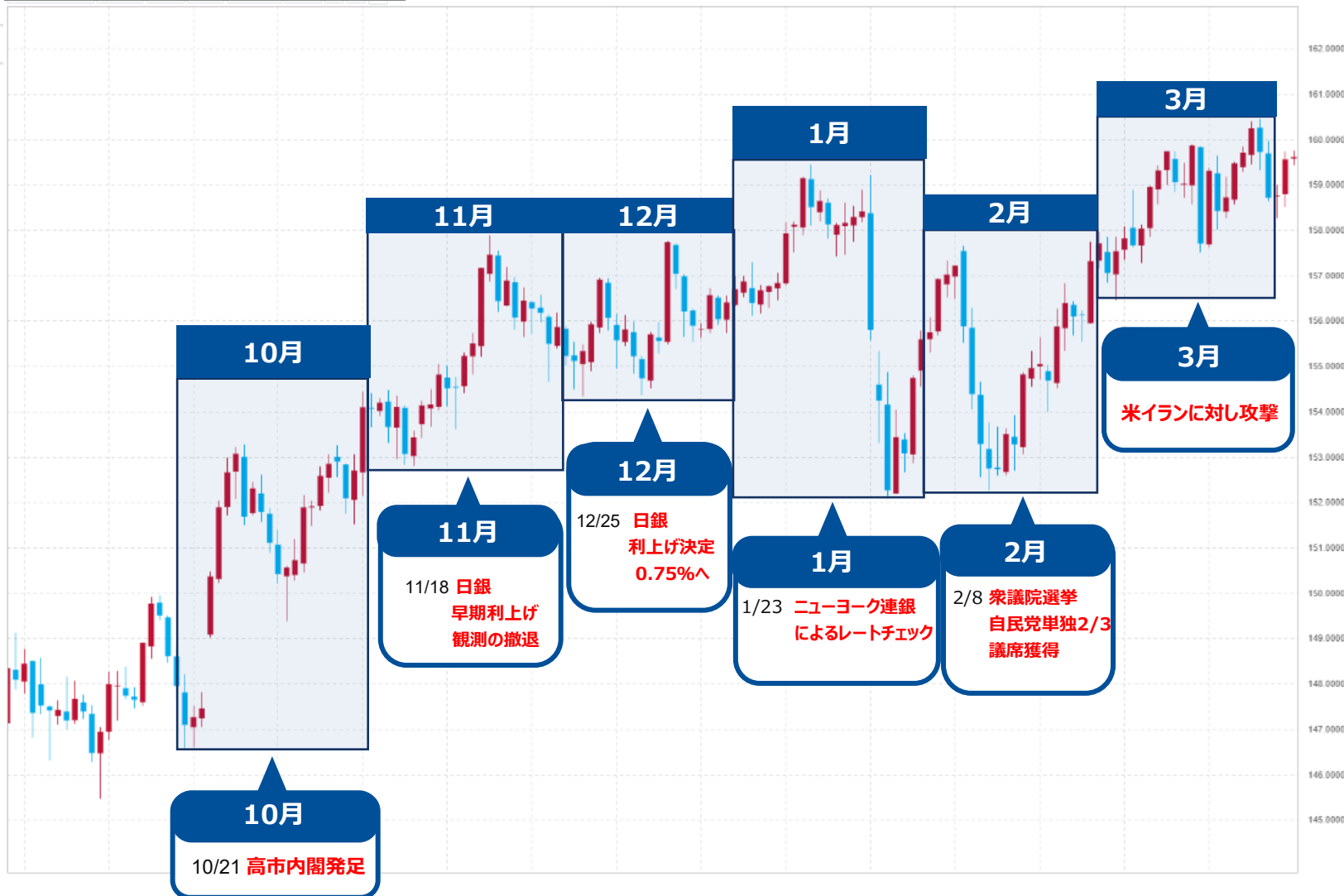


# 2026年3月期 下期 市況概況

金融を、もっと面白く。



USDJPY (日足チャート)



## 市況概況

第4四半期のドル/円相場は、1月には前年からのドル高・円安基調が続く中、ニューヨーク連銀による為替レートチェックが意識され、円安けん制への警戒感が強まった。この影響で一時的に円買いが入る場面もあったが、米国の堅調な経済指標を背景にドルは底堅く、150円台を中心に推移した。

2月は衆議院選挙を巡る動向が注目され、国内の政策不透明感が円の重しとなった。一方で、米国では高金利環境が維持されるとの見方からドル買いが優勢となり、ドル/円は150円台半ばを中心にややドル高寄りの展開となった。

3月は米国によるイランへの攻撃を背景に地政学リスクが高まり、リスク回避の円買いが強まる場面が見られた。ただし、その後は米金利の高止まりが意識されドルが下支えされ、全体としては上下に振れながらも方向感に欠ける推移となった。

# 国内FX市場全体の取引高推移

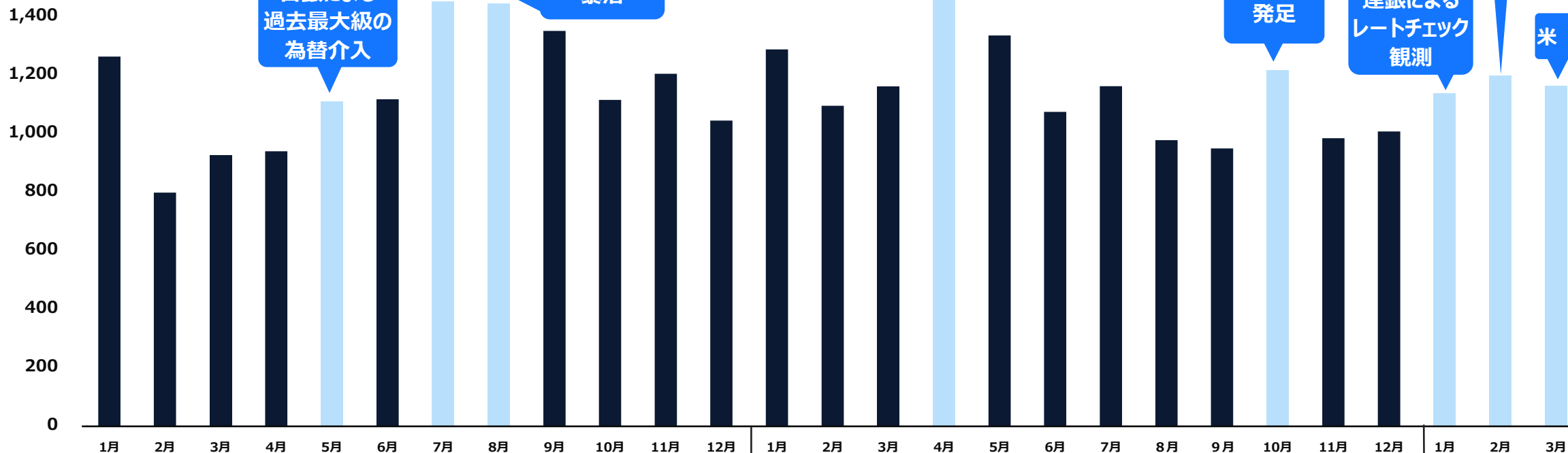
金融を、もっと面白く。



- ✓ 2024年は、為替介入や株式市場の急激な変動等を背景に、為替相場が大きく変動する局面が見られた
- ✓ 2025年は大きなイベントが限定的であり、相場は総じて落ち着いた状況で推移したが、2026年に入りボラティリティの高まりを背景にFX取引高は再び増加傾向に転じた

## 店頭FX取引額の状況（国内）

(単位:百万円)



日銀による過去最大級の為替介入

日銀による為替介入および利上げ示唆

米国景気後退懸念による暴落

米 解放の日 相互関税

高市政権発足

ニューヨーク連銀によるレートチェック観測

衆議院選挙 与党大勝 政権安定期待

米 イラン攻撃

2024年

約1京3,000兆円

2025年

約1京3,000兆円

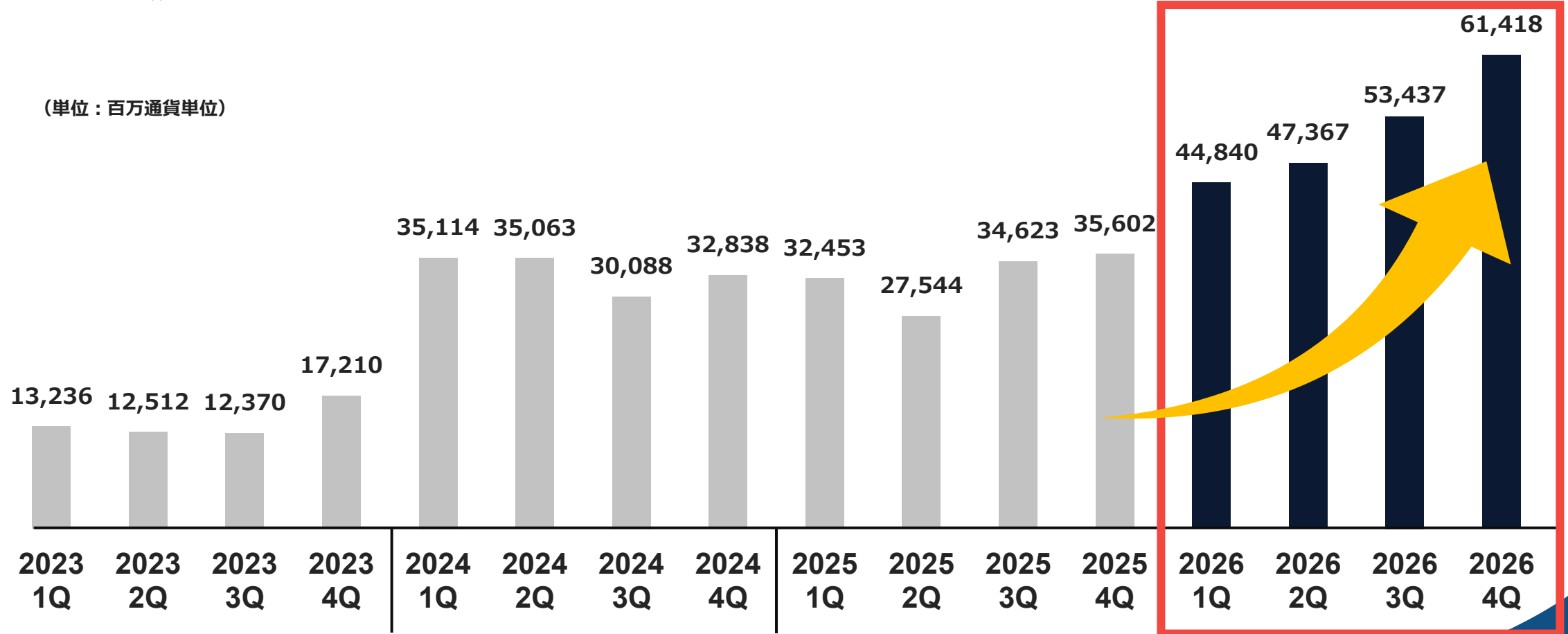
2026年

# 【補足説明】当社における顧客建玉数の推移（四半期）

- ✓ 顧客建玉数は当期から増加ペースが上昇し、四半期ごとに過去最高を連続で更新
- ✓ 今後決済注文が発生するタイミングで大きく収益を伸ばす素地が整う

※顧客建玉数とは、FX取引において、お客様が新規に建てたポジション（買い建玉・売り建玉）を決済せずに保有している数量を指します。

(単位：百万通貨単位)



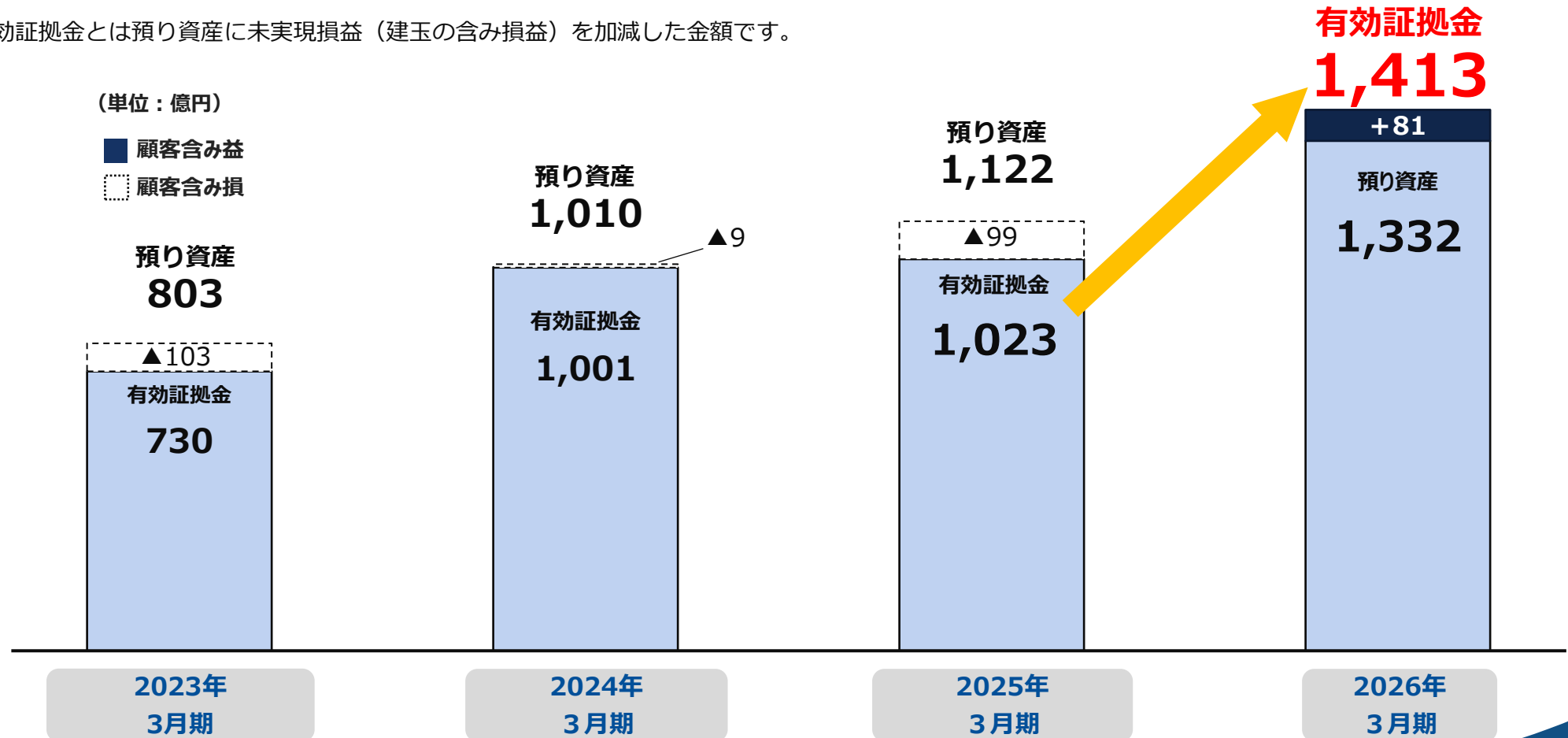
# 【補足説明】有効証拠金の推移

金融を、もっと面白く。



- ※
- ✓ 顧客含み損益が改善し、**有効証拠金の残高が預り資産を上回って推移**
- ✓ 顧客の潜在的な投資余力の増加から、当社の**将来収益の増加**が期待できる状況に
- ✓ **2026年3月期の顧客実現利益は+298億円と大きく伸長し、含み益・実現利益ともに良好な結果に**

※有効証拠金とは預り資産に未実現損益（建玉の含み損益）を加減した金額です。

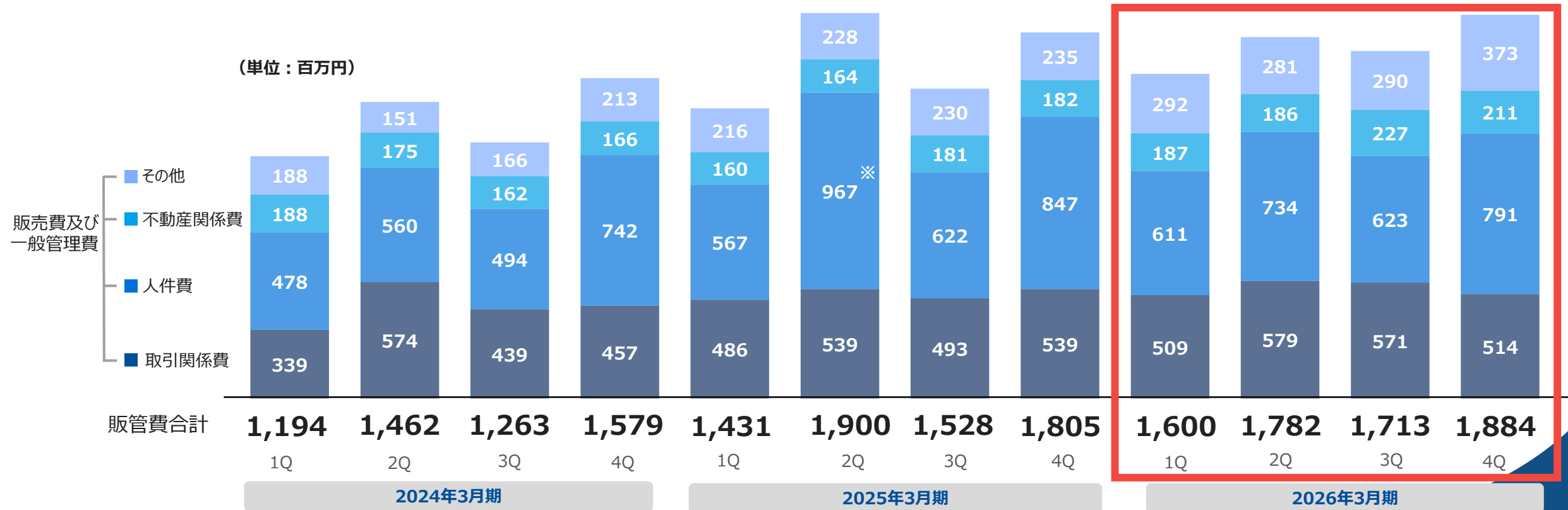


# 販管費の推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 預り資産の中期経営計画目標達成に向け、マーケティング費用の積極投下に引き続き注力  
**広告宣伝費の増加に伴い、取引関係費は前期比で増加**  
 (当期に重点的に実施している大型キャンペーンによるキャッシュバックは営業収益のマイナスとして計上されるため、  
 広告宣伝費には計上されていない)
- ✓ 優秀な人材獲得・確保のため、**高ROEと高賃金（賃上げの継続）の両立の追求**を継続し、人的資本投資として人件費は逡増傾向  
 将来的な人員増強を見越して恵比寿ガーデンプレイスタワー内のオフィスを増床し、不動産関連費用が増加



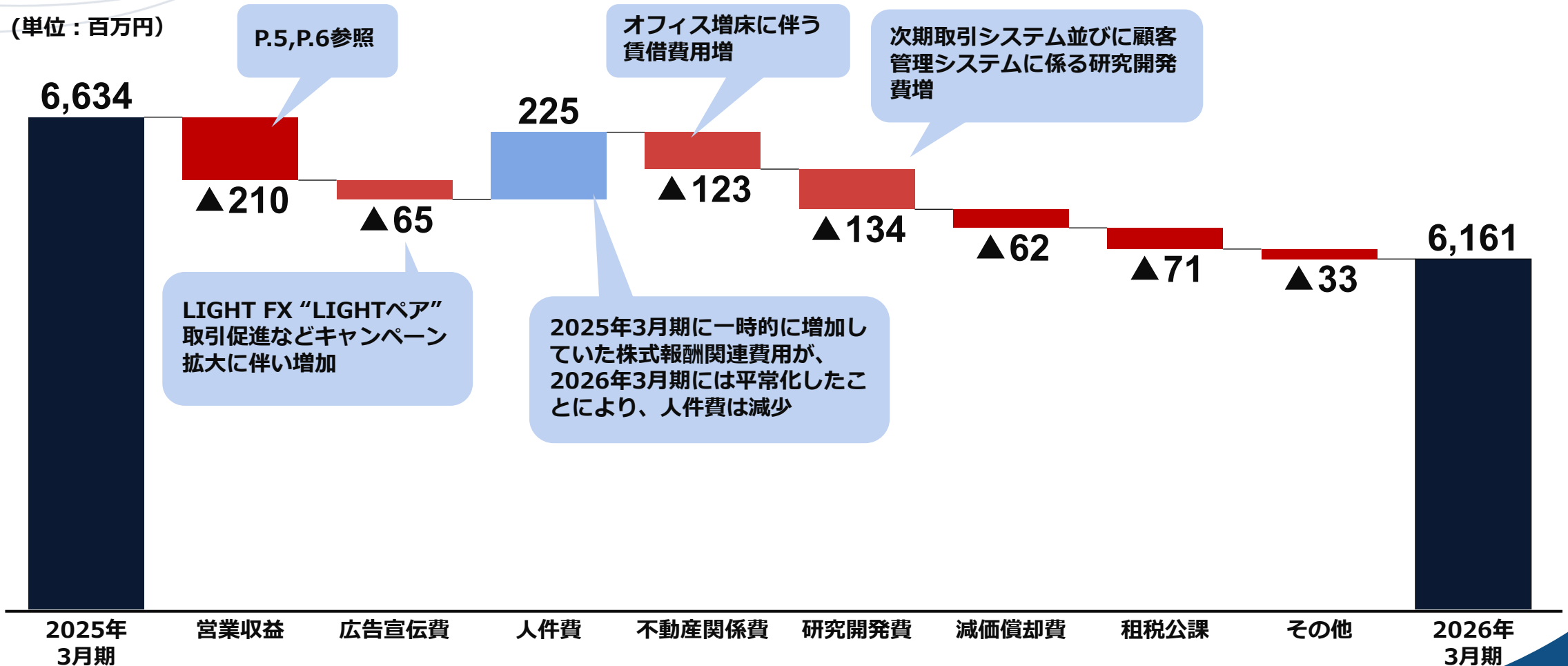
\* 会計上の見積もり変更反映による一時的増加約2.5億を含んだ金額

# 営業利益の対前期比較増減要因分析

金融を、もっと面白く。



(単位：百万円)



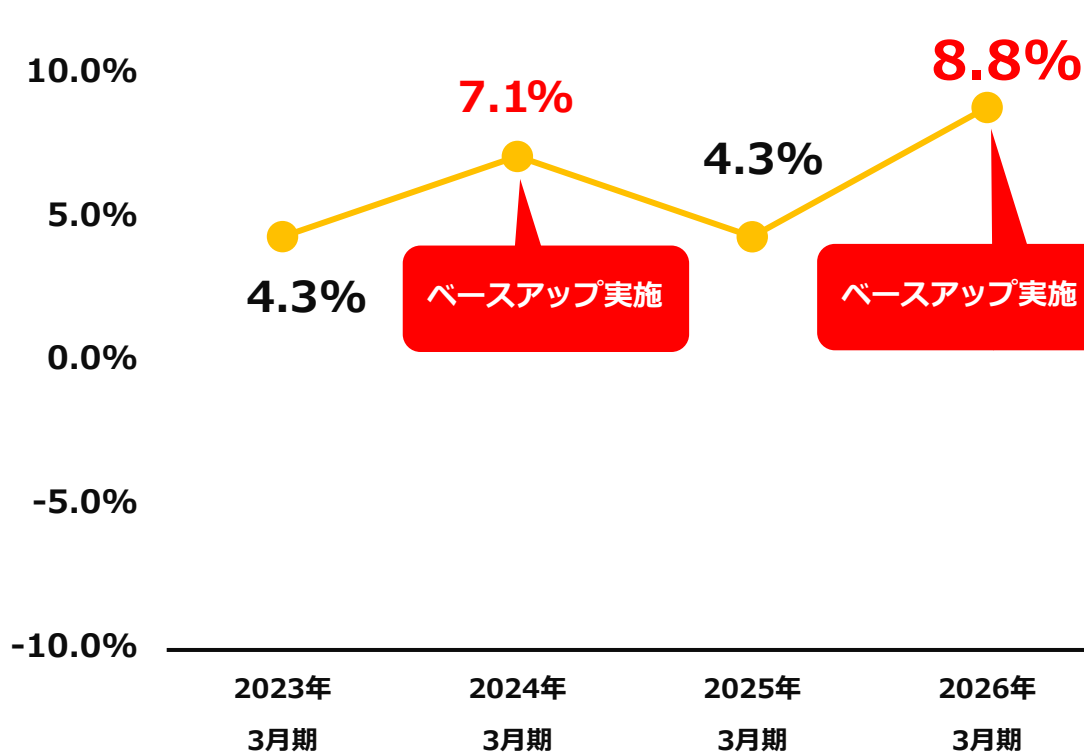
# 高賃金 + 高ROEの両立を追求（更新）

金融を、もっと面白く。

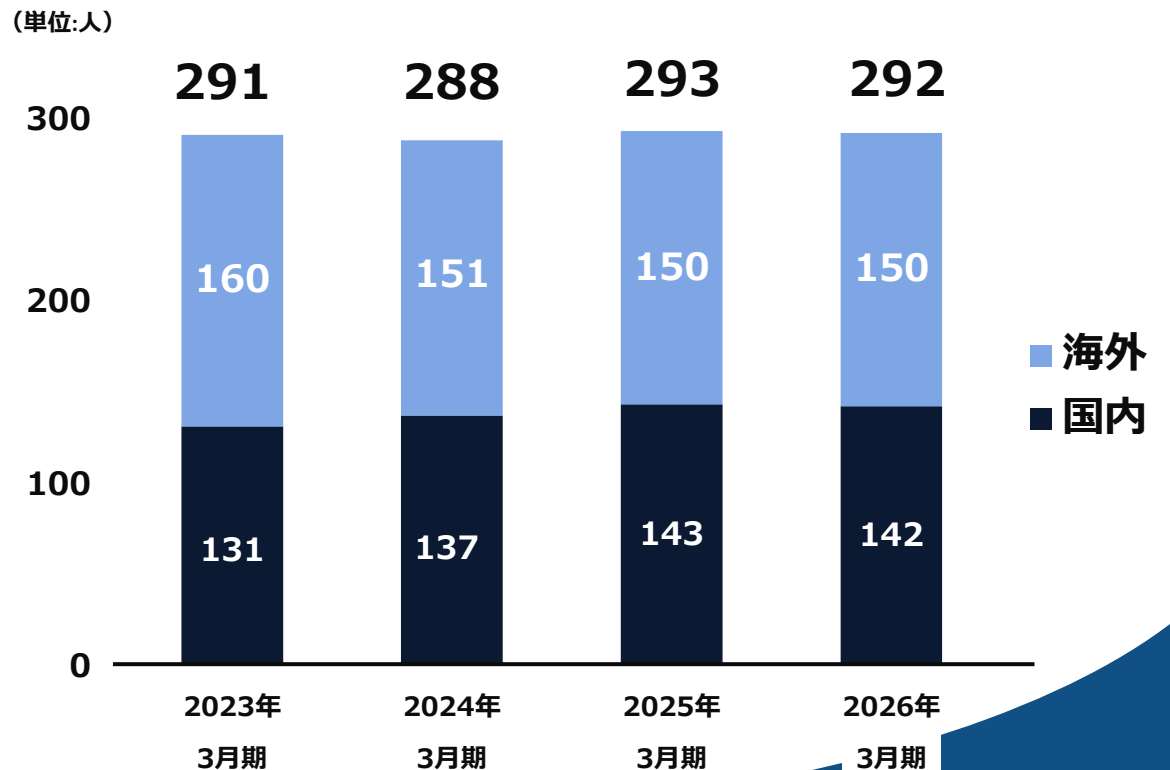


- ✓ 将来の持続的な成長を実現するため、社外から優秀な人材が集まり、また既存役職員が高いモチベーションをもって長きに勤続する企業であることを目指して、賃上げ（給与・賞与水準の引き上げ）と、その成果である高ROEの両立を追求
- ✓ 当期における従業員の給与改定では**年間ベースアップ + 評価昇給の合計で年率8.8%の昇給を実現**

※1  
グループ社員給与上昇率



※  
グループ人員数の推移



※1 固定年収ベース（基本給等の定額報酬）で算出。賞与・インセンティブ等の変動報酬は含まない。

※2 グループ全社の従業員と子会社の役員を集計しております。

# 通期予想と実績の差異に関する補足説明

金融を、もっと面白く。



第3四半期決算において通期予想を下方修正したが、第4四半期に収益が伸長した結果、営業収益は修正後予想を10%を超えたため、再度上方修正を行った。

(単位：百万円)	2026年3月期 (期初予想)	2026年3月期 (a:修正予想)	2026年3月期 (b:実績)	増減額 (b-a)	増減率 ((b-a)/a)
営業収益	14,700	12,000	13,218	+1,218	+10.2%
営業利益 (営業利益率)	7,000 (47.6%)	5,000 (41.7%)	6,161 (46.6%)	+1,161	+23.2%
経常利益	7,000	5,000	6,161	+1,161	+23.2%
親会社株主に帰属 する 当期純利益	4,800	3,500	4,244	+744	+21.3%
預り資産	1,300億円	1,350億円	1,332億円	▲17億円	-

# 【参考】連結業績の四半期ごとの比較

金融を、もっと面白く。



過去最高の収益および利益

今回最高収益および最高利益を更新

(単位：百万円)	2025年3月期				2026年3月期				前年同期比
	1Q (2024年4-6月)	2Q (2024年7-9月)	3Q (2024年10-12月)	4Q (2025年1-3月)	1Q (2025年4-6月)	2Q (2025年7-9月)	3Q (2025年10-12月)	4Q (2025年1-3月)	
営業収益	3,513	4,143	2,903	2,867	3,018	2,837	3,142	4,220	+47.1%
営業利益 (利益率)	2,054 (58.5%)	2,219 (53.6%)	1,337 (46.1%)	1,022 (35.7%)	1,395 (46.2%)	1,034 (36.5%)	1,410 (44.9%)	2,320 (55.0%)	+126.8%
経常利益 (利益率)	2,051 (58.4%)	2,233 (53.9%)	1,332 (45.9%)	1,033 (36.0%)	1,413 (46.8%)	1,029 (36.3%)	1,409 (44.9%)	2,308 (54.7%)	+123.4%
四半期純利益 (利益率)	1,485 (42.3%)	1,400 (33.8%)	939 (32.4%)	721 (25.2%)	1,079 (35.8%)	668 (23.5%)	1,000 (31.8%)	1,496 (35.4%)	+108.4%

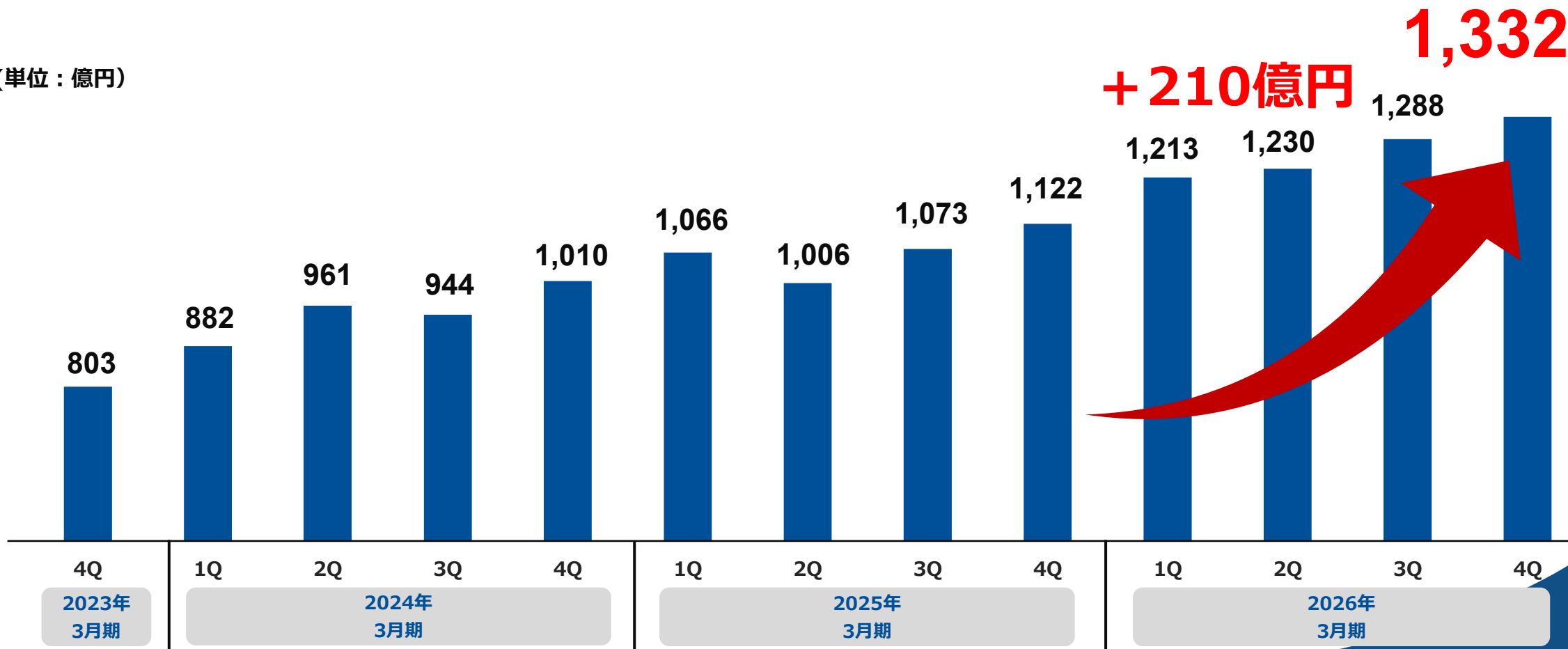
# 預り資産推移

金融を、もっと面白く。



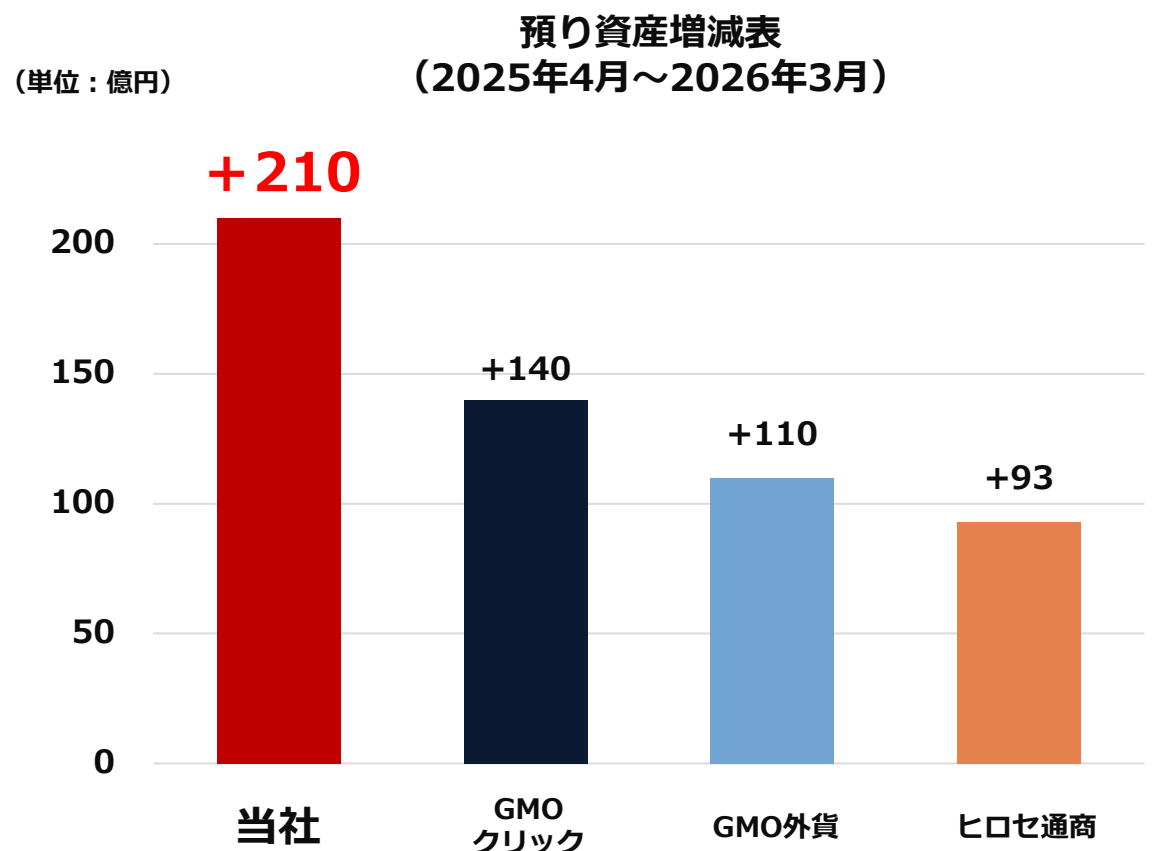
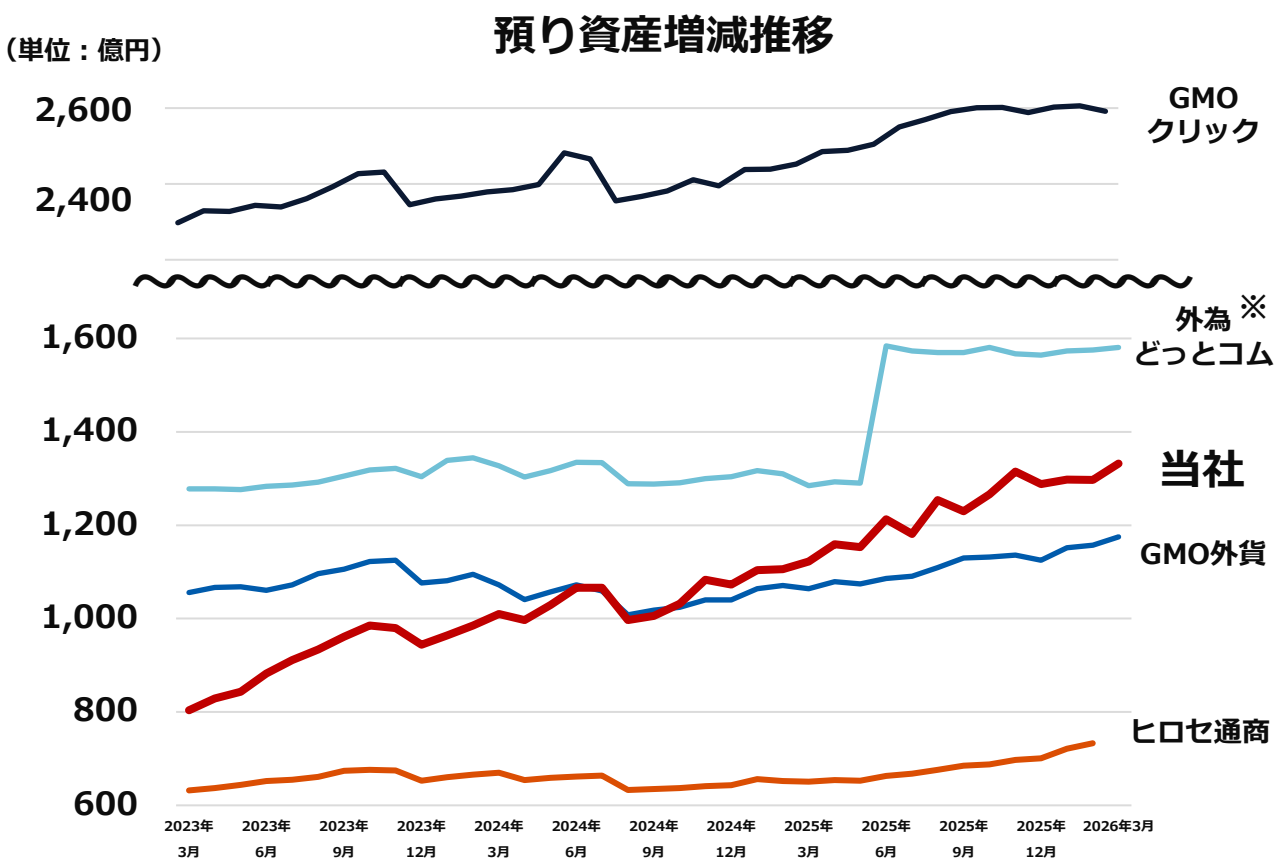
- ✓ みんなのFXにおけるLIGHTペア導入および高金利通貨とスイスフランを組み合わせた最高スワップの新通貨ペア導入（スイスフラン／トルコリラ等）など、当社独自のサービスと大型キャンペーンを組み合わせ、預り資産は順調に増加
- ✓ 当期は**210億円超の純増**を達成し、**当社過去最高の年間増加額**となった

(単位：億円)



# FX業界における預り資産他社比較

✓ スプレッド・スワップなどスペックの競争が熾烈な中、4月のみんなのFX LIGHTペアのリリース、9月のスイスフラン関連の最高スワップ付与の新通貨ペアのリリース、年間を通じた顧客還元を強化した大型キャンペーンの実施などの成果により、**過去最高の210億円の預り資産増加を達成、年間増加額は3年連続で業界トップ**※



※外為どっとコム社の預り資産は2025年6月28日に行われたマネーパートナーズ社とのサービス統合に伴う移管分が含まれております。なお、当該M&Aによる増加分は年間純増額の順位には含めておりません。

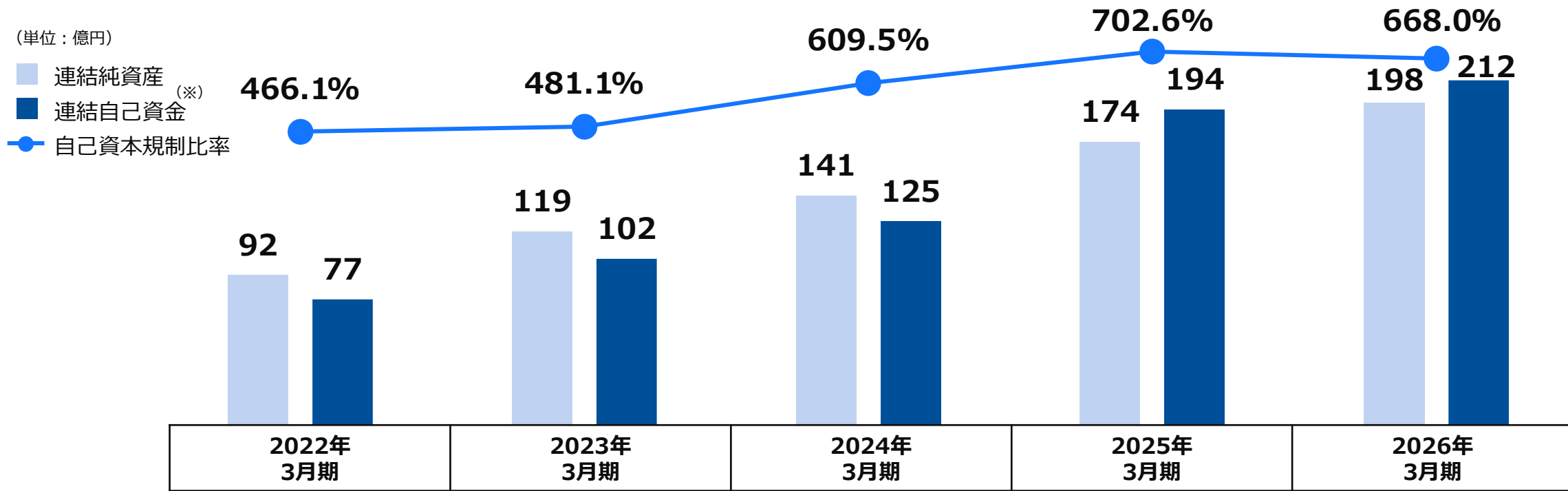
出典：FXに関する月次預り資産をウェブサイト又は開示書類で公表している企業より掲載しております。

# 連結純資産および連結自己資金並びに財務安全性の推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 自己資本規制比率（金商法第46条の6第1項に基づく比率）は600%超で推移し、安定的水準は確保しているが、顧客建玉数が過去最高に増加しており、リスク計算額が自己資本の増加（内部留保）以上に増加した結果、同比率は前期比で約35%減少
- ✓ 今後もリスク計算額の増加に見合う自己資本を確保し、ストレステスト（金商法第123条の第1項21号の4）の逼迫による取引制限の発動で収益機会を逃す機会損失を発生させない財務管理が重要
- ✓ 資本の内部留保も重視して「固定化されていない自己資本」を確保し、FX事業への再投資と位置付ける



(※) 連結自己資金 = 連結現金預金 + 短期差入証拠金 - 有利子負債  
 (資金のうち顧客分別金を除いた当社グループに帰属する短期の自己資金)

金融を、もっと面白く。



# 2027年3月期（中期経営計画3期目） 通期連結業績予想

# 2027年3月期 通期連結業績予想

金融を、もっと面白く。



- ✓ 通期で預り資産168億円増加を計画し、**預り資産の目標は1,500億円とする**  
2024年4月に公表した中期経営計画における最終年度目標を**50億円上方修正**
- ✓ 営業収益は預り資産の増加を背景に**過去最高の157億円を計画**  
広告宣伝費等の増加を見込むも高営業利益率を維持 **営業利益・経常利益は最高益の70億円を計画**

(単位：百万円)	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (予想)	増減
営業収益	13,218	15,700	+2,482
営業利益 (営業利益率)	6,161 (46.6%)	7,000 (44.6%)	+839
経常利益	6,161	7,000	+839
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,244	4,800	+556
預り資産	1,332億円	1,500億円	+168億円

金融を、もっと面白く。



# 2027年3月期の施策

# 当社グループの競争優位性

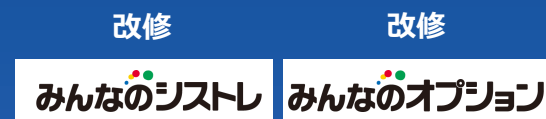
- ✓ これまで当社グループは、商品力およびシステム開発力を基盤に新たな価値を創出してきました。今後はこれらの強みをさらに進化させるとともに、プロダクト創出力および知財戦略という新たな力を確立し、さらなる競争優位と新たな価値提供を実現してまいります。



- ・ 業界最高水準のスプレッドスワップが生み出す、強い競争力



## 新領域

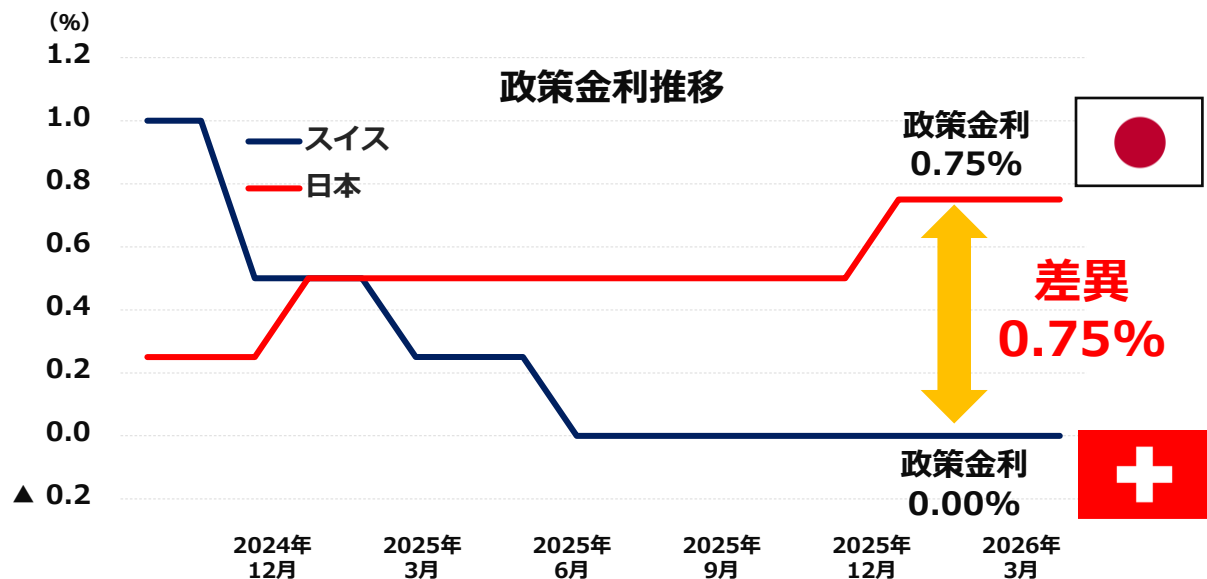


- ・ 20年以上のFX専門知見に裏打ちされた圧倒的な問題解決力
- ・ 市場変化に即応する圧倒的な開発スピード
- ・ グループシナジーによる低コスト運営を実現



- ・ 知財で超過収益力を防衛
- ・ 独自性の確立と競争優位の強化
- ・ 収益機会の最大化

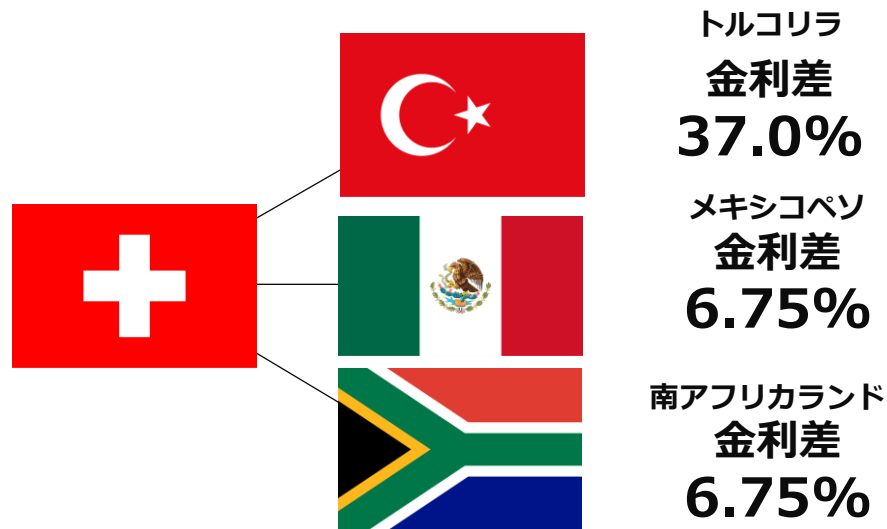
- ✓ 2025年9月より導入したスイスフランクロス3銘柄は、現在当社のみがサービス提供
- ✓ これまでお客様により高いスワップポイントを提供することを最優先に追求 **さらなる商品研究の結果スイスフランを活用 従来を上回るスワップ提供を実現する新たな商品を導入し預り資産増加に貢献**
- ✓ 来期はさらに金利差のある通貨ペアを追加し、独占的なポジションを確実なものに



クロス円と比べ、

**日本の政策金利0.75%分  
スワップ収益の年利回りが有利**

## 2026年3月期追加銘柄



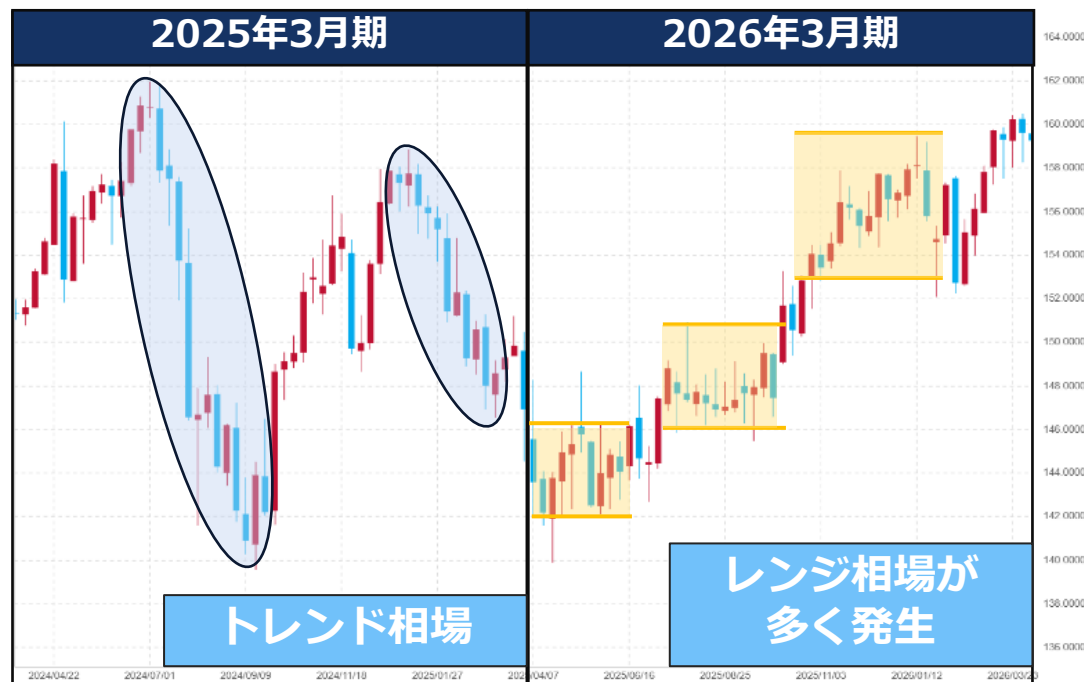
**上記に加え2027年3月期は  
高金利通貨ペアをさらに拡充予定**

# みんなのシストレ

金融を、もっと面白く。



- ✓ 売買シグナルの配信システムをMT（MetaTrader）4から**MT5へ載せ替え完了**
- ✓ 2027年3月期は人気のリピート系注文を強化 3月に導入した**「新みんなのリピート」（特許出願済み）**は従来にない独自のロジックでサービスを提供



- ✓ 相場変動に応じて注文を最適化する**独自ロジックを採用**
- ✓ 約定ごとに次の注文を最適化し、相場に応じた柔軟な自動取引を実現 **特許出願中の独自開発プロダクト**
- ✓ 難解な初期設定を必要とせず、初心者層にも利用しやすい設計

- ✓ 2026年3月期は為替相場のボラティリティが低下し、レンジ相場が多く発生
- ✓ 当社は昨年からレンジ相場対策でシステム準備を進めており、みんなのシストレにおいてリピート系ストラテジーとの親和性を活かし、取引機会および収益機会の拡大に向けてリピート注文系の新サービスを投入

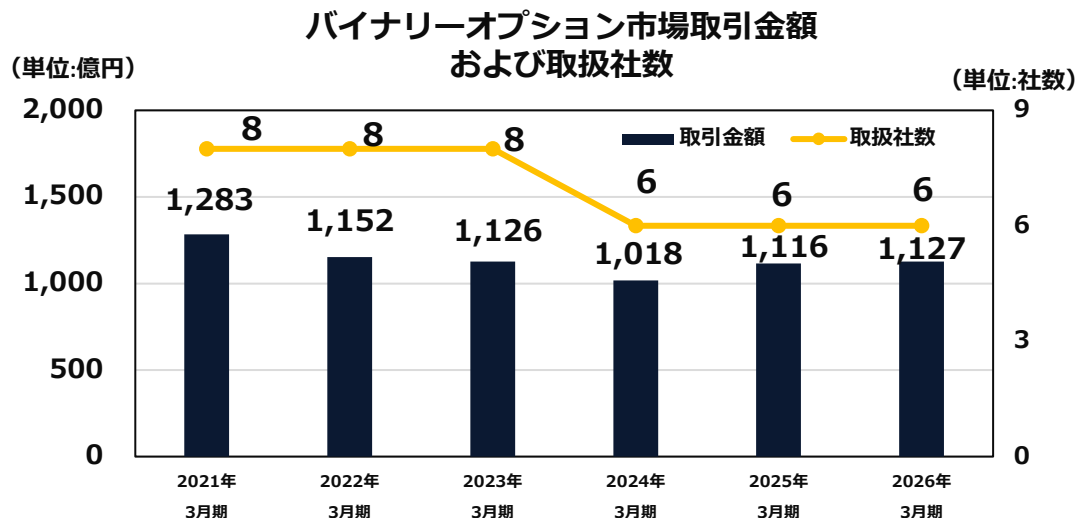
**システムの準備が整った2027年3月期は  
シストレ預り資産拡大フェーズへの転換点とする！**

# みんなのオプション

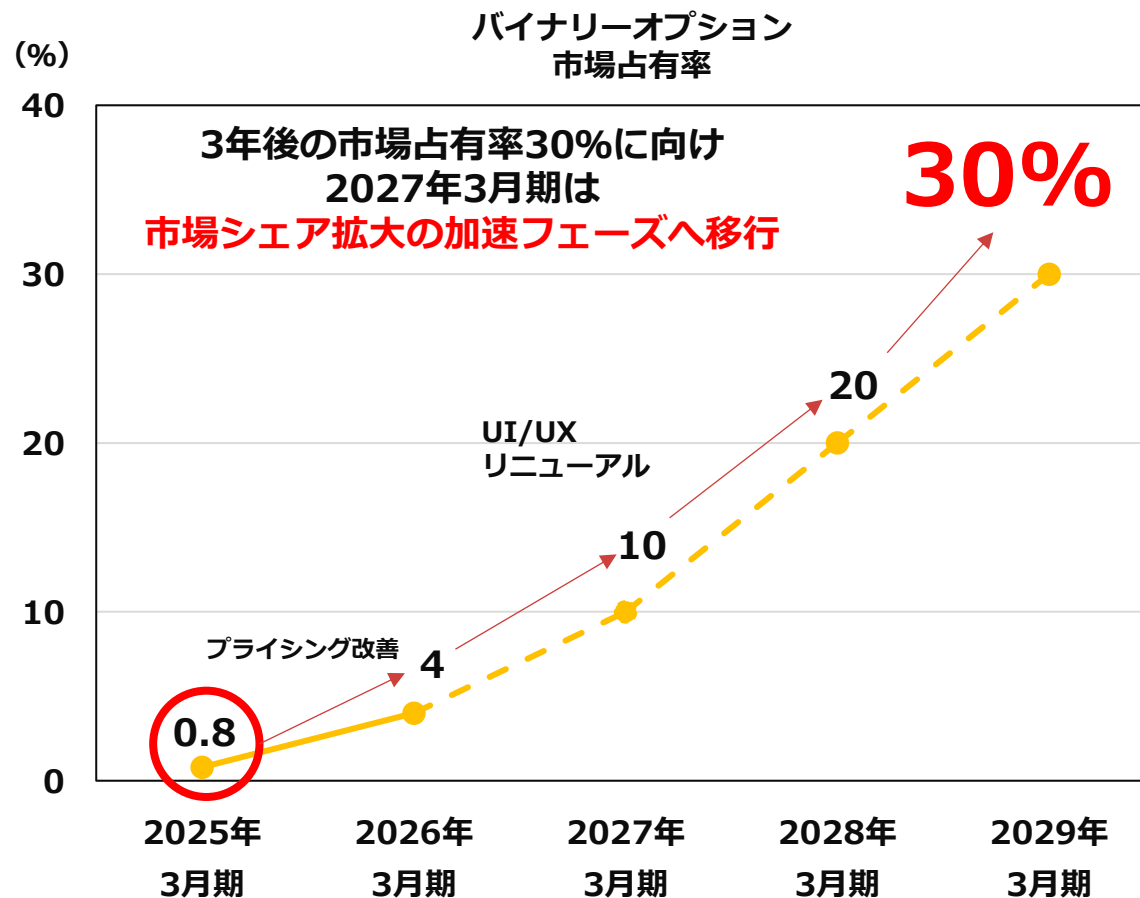
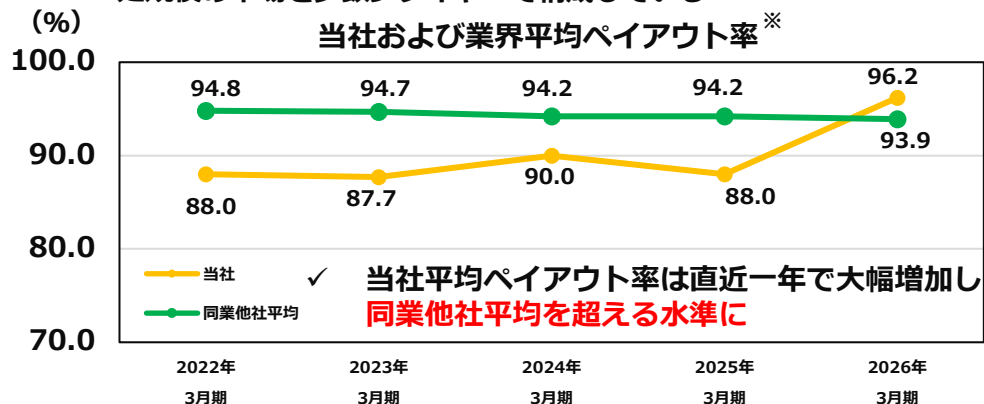
金融を、もっと面白く。



- ✓ 2026年3月期に先ずプライシングを改善し、市場シェアは**0.8%から4%まで上昇**
- ✓ 2027年3月期にはUI/UXを**業界トップクラスのデザインと優れたユーザビリティへリニューアル予定**
- ✓ 他社平均水準を上回るペイアウト率で攻勢をかけ、競争力強化 **3年後の市場占有率30%を目指す**



✓ 取扱社数は現在6社、取引代金は年間約1,100億円程度で推移しており、一定規模の市場を少数プレイヤーで構成している



※ 同業他社平均ペイアウト率は一般社団法人金融先物取引業協会による公表情報より計算

2025年3月期

2026年3月期

2027年3月期

## — 特許出願体制の戦略的構築 —

- ✓ 特許出願機能の内製化および専任体制の組織確立
- ✓ 大手特許事務所との連携による知財推進体制の高度化
- ✓ 発明創出を促進する社内制度（報奨・アイデア募集）の整備

## — 特許量産体制の構築 —

- ✓ 出願件数の増加および出願領域の拡張
- ✓ 当社初となる特許取得「LIGHTペア」

## — 体制構築による成果 —

- ✓ 累計16件の特許出願を実施し、量産体制へ向けて計画どおり始動
- ✓ 特許第1号を取得し、知財戦略が権利化サイクルまで完結

## 知財戦略の 実用化および高度化 を目指す

- ① リピート注文関連の自社特許技術を「みんなのシストレ」に実装  
独自性の高い機能を付加価値として提供し、超過収益力を創出
- ② 特許申請までの訓練期間を終え、出願件数の拡大目標から、収益貢献を見据えた特許取得を重視する収益化フェーズへ
- ③ 権利化の精度向上と事業領域の防衛力強化により、知財戦略を高度化

金融を、もっと面白く。



# 株主還元

# 株主還元

金融を、もっと面白く。

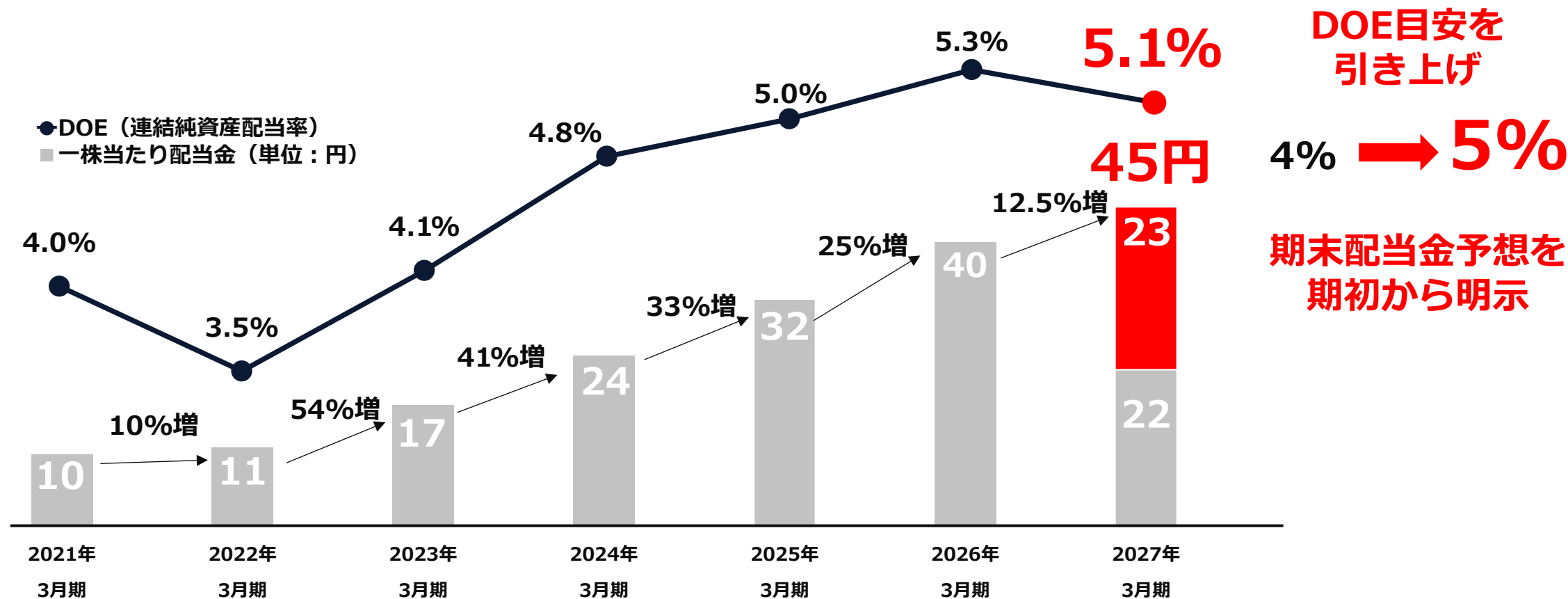


## 【還元方針】

- ✓ **今回から決算短信において期末の配当予想を公表**（2027年3月期配当金予想を公表）
- ✓ **配当還元方針を、連結純資産配当率（DOE）4%目安→5%目安に引き上げ**

## 【配当予想】

- ✓ **中間配当金22円・期末配当金23円と年間45円を予定 6期連続増配へ**
- ✓ **配当開始以降、6期連続で増配を予定 安定的な配当および機動的な自社株買いを実施**

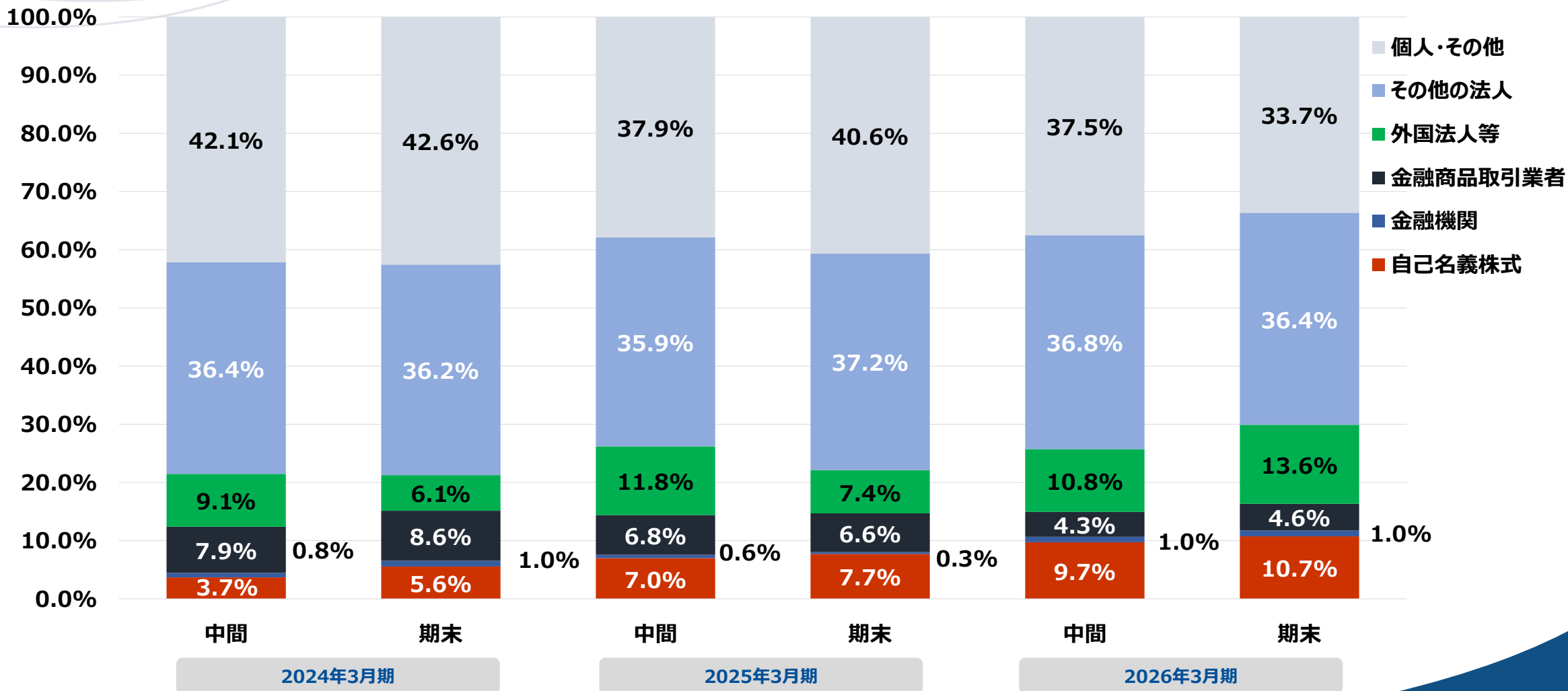


# 株式情報（保有状況分布表）

金融を、もっと面白く。



- ✓ 海外投資家比率の上昇に加え、個人投資家比率は低下し、**中長期保有を志向する機関投資家の保有が拡大**
- ✓ 引き続き資本政策やIRに注力し最適な株主構成を目指す



金融を、もっと面白く。

Traders

# 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応

# 現状分析および評価

金融を、もっと面白く。



- ✓ 当社は株主資本コストを11.8%と認識
- ✓ 収益性の高い店頭FXへ経営リソースを集中 システム内製化により高機能開発とコスト最適化を両立  
2026年3月期は**営業利益率約47%** **ROE22.9%**と高い収益性を実現
- ✓ PBRは直近5期で1.1~1.5倍と東証の求める1倍を超えるも、さらなる改善に向け高ROEの維持と株主資本コストの抑制を図る

当社が認識する資本コスト

ROE

エクイティスプレッド  
(ROE-株主資本コスト)

株主資本コスト

11.8%

2026年3月期

22.9%

2026年3月期

11.1%

PBR

PER

1.35倍

6.4倍

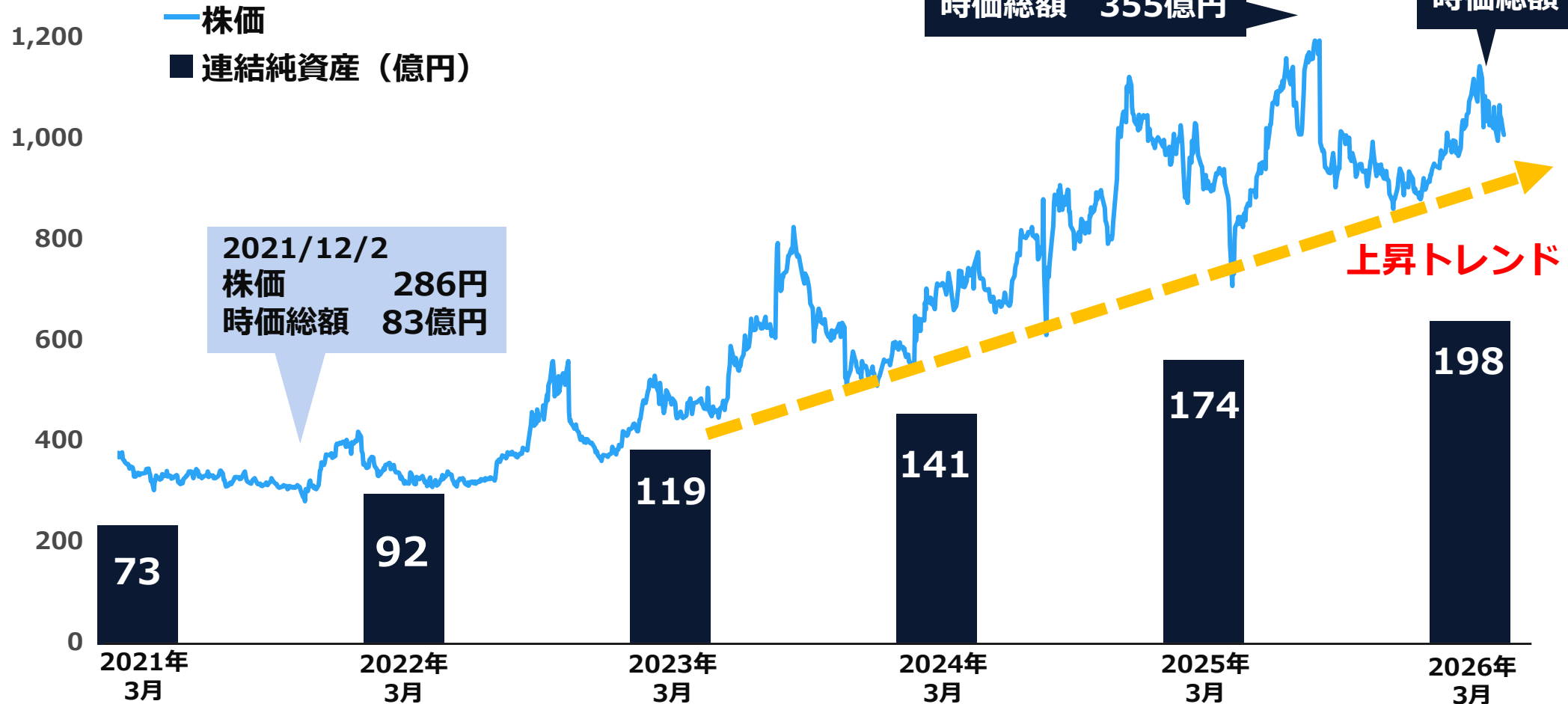
# 市場評価（株価推移）

金融を、もっと面白く。



- ✓ 時価総額は一時350億円を超え 業績の成長および純資産の積み上がりと共に株価も向上
- ✓ 2021年3月末比で純資産は**3.6倍**、株価は**約4倍**に

(単位:円)

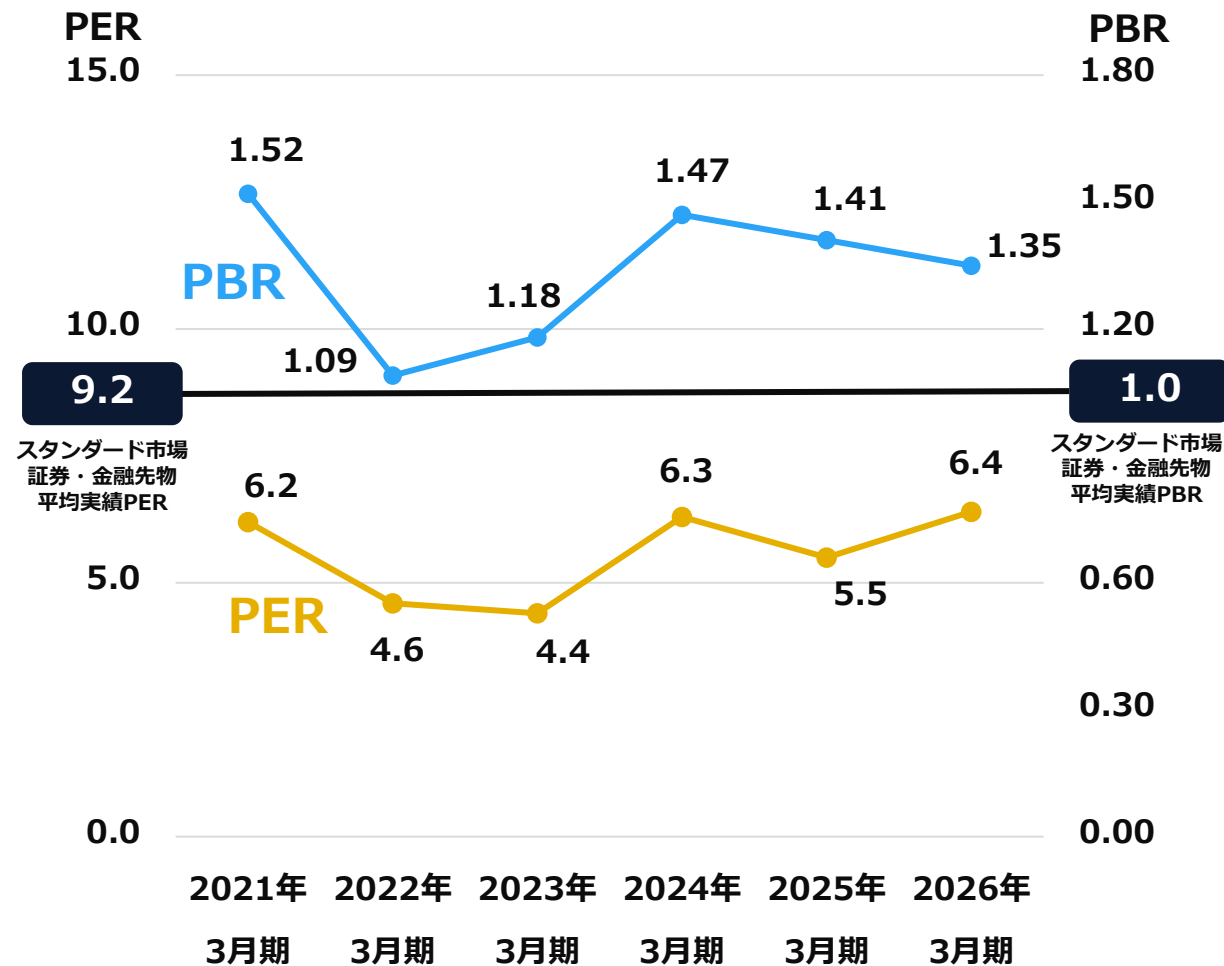
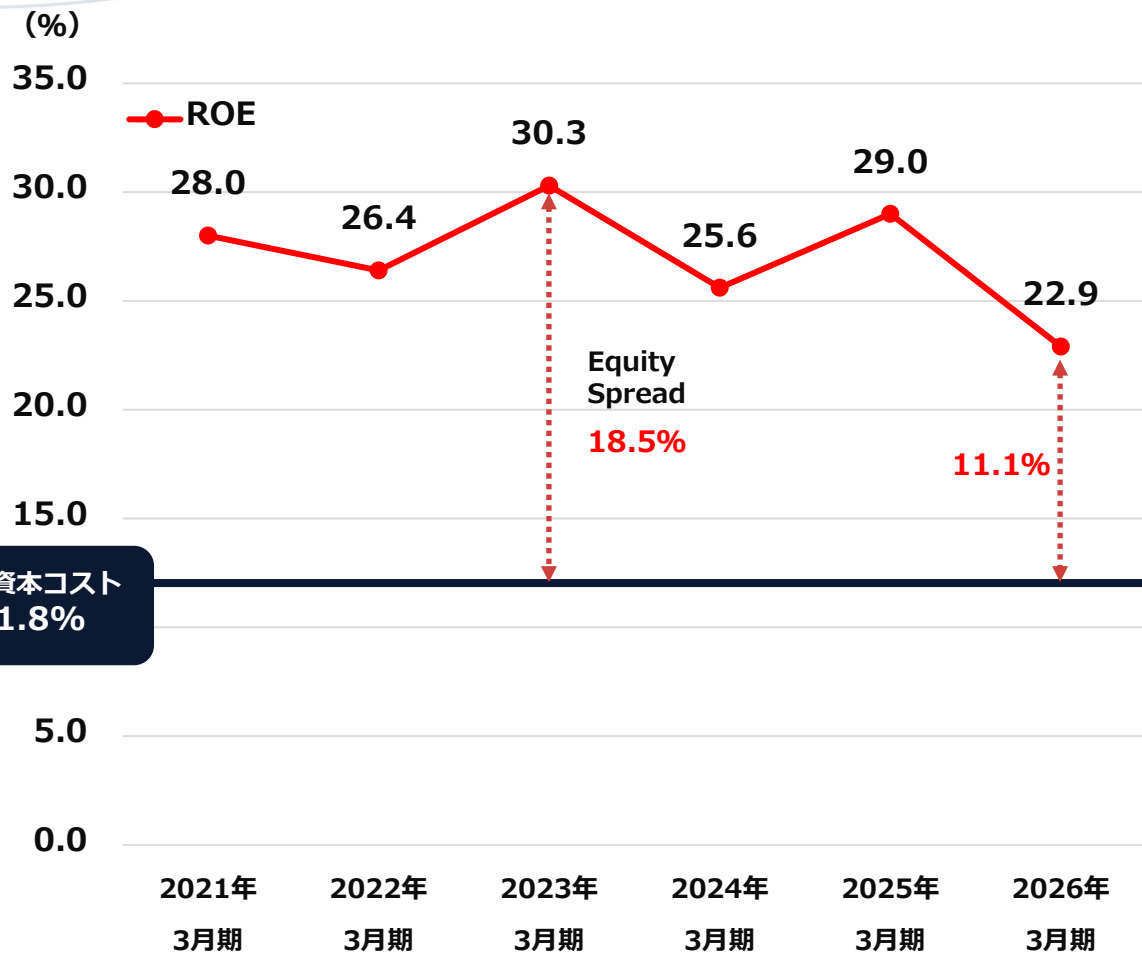


# 資本利益率（ROE）と市場評価（PER）の認識

金融を、もっと面白く。



- ✓ 平均、各社より高い資本コストと認識しつつも高ROEによりエクイティスプレッドは5期連続で10%以上を継続  
 当社PERは各期末で6倍前後だが証券業界でも松井証券（16倍）やGMOフィナンシャル（10倍）など上昇の余地は有



# 株主資本コスト認識および当社のポジション

金融を、もっと面白く。



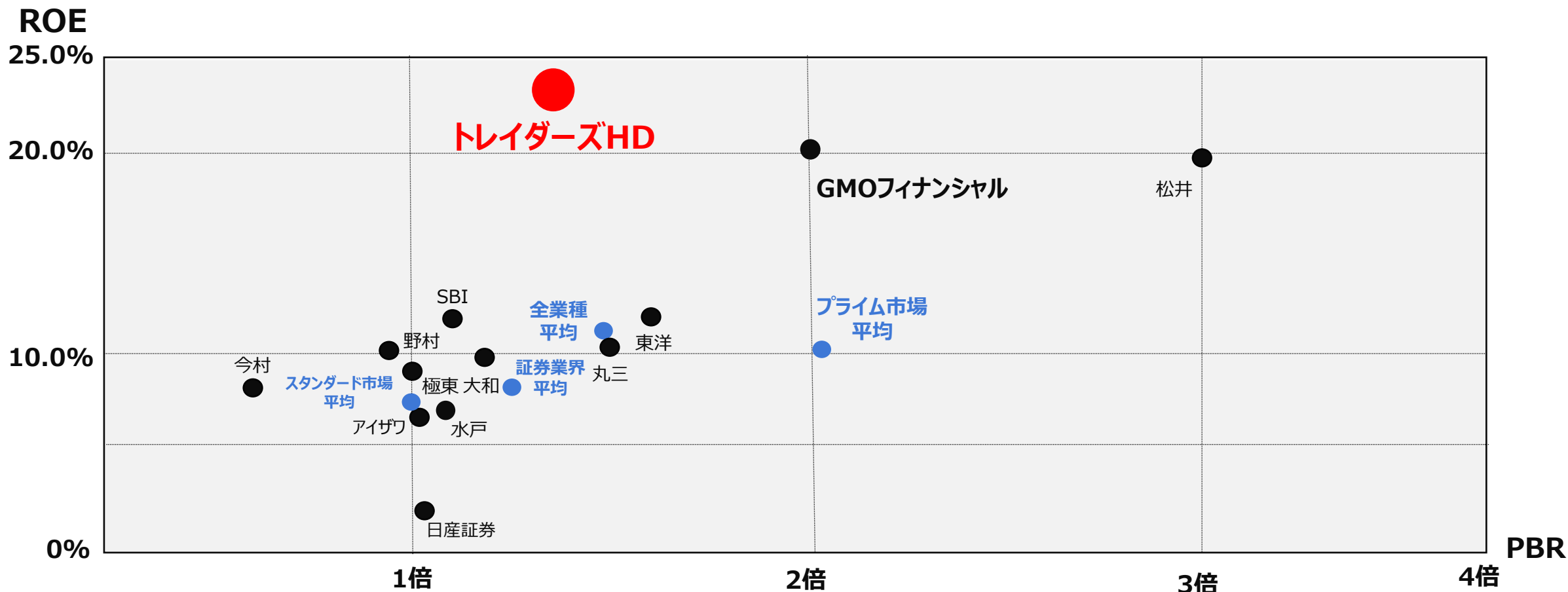
- ✓ 当社株主資本コストは国債の利回り上昇を加味し、11.8%に変更、高ROEにより高いエクイティスプレッドを実現
- ✓ 資本コストについて開示を行っている企業と比べても**エクイティスプレッドは高水準に**

企業名	株主資本コスト	ROE	エクイティスプレッド
トレイダーズホールディングス	11.8	22.9	11.1
全業種平均	8.9	10	1.1
証券業界平均	8.5	8	▲0.5
プライム市場	8~10	9.4	1.4
スタンダード市場	9~12	7.3	▲1.7
GMOフィナンシャルHD	8.5	20.7	12.2
大和証券グループ本社	8~9	10.3	2.3
野村ホールディングス	8	10.1	2.1
SBIホールディングス	8~9	12.8	4.8
丸三証券	6~7	10.1	4.1
東洋証券	6~7	12.9	6.9
水戸証券	6~9	7.5	1.5
松井証券	8	19.6	11.6
極東証券	9	9.2	▲0.2
アイザワ証券グループ	8	6.0	▲2.0
今村証券	10	8.4	▲1.6
日産証券グループ	5~8	2.7	▲2.3
日本証券金融	5	7.4	2.4
日本取引所グループ	7	23.1	16.1

出典：株主資本コストに関しては各社のコーポレートガバナンス報告書に記載の内容より抽出  
市場および業界平均に関しては独自計算および比較サイトより抽出

# ROEとPBRのマトリックス分析

- ✓ **当社は証券業界内でもトップのROEを実現し、PBRは約1.35倍と東証の要請するPBR1倍を超える**
- ✓ 証券セクターでは収益の不確実性が高い観点から、投資判断において収益性に比べ純資産（PBR）を基準に評価される傾向
- ✓ **当社は、連続増益と高ROEを両立・維持しているため、PBRは常時1倍超を達成**
- ✓ 引き続き、業績の成長により企業価値を高め、IRを通じて成長戦略を適切に伝え市場評価向上に努める



注：各社のPBRは2026年3月31日時点での株価を基に開示情報から独自に計算しております。

金融を、もっと面白く。



# Appendix

投資魅力の高い会社として指数構成銘柄に選定

金融を、もっと面白く。



3年連続で「JPX日経中小型株指数」構成銘柄に選定



JPX-NIKKEI Mid Small

2023 - 2025年度選定

資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、「投資者にとって投資魅力の高い会社」が採用される「JPX日経中小型株指数」に**3年連続で**選定されました

## □ JPX日経中小型株指数とは

- ✓ JPX総研と日本経済新聞社が共同で算出した、JPX日経400と同じコンセプトを中小型株に適用し、**持続的な企業価値の向上、株主を意識した経営を行っている企業**で構成する株価指数
- ✓ 東京証券取引所のプライム市場、スタンダード市場、グロース市場の対象銘柄の中から、定量的な指標のスコアリングに加え、定性的な要素を加えた基準で行われ、**上位200銘柄が選定**

# 世界的な経済紙「Forbes」アジア版より表彰

金融を、もっと面白く。



□「Forbes Asia's 200 Best Under A Billion 2025」に選定！

## Forbes Asia BEST UNDER A BILLION

- ✓ アジア太平洋地域の年間売上高1,000万ドル以上10億ドル未満の上場企業2万社以上を対象に、過去12カ月間かつ3年間にわたる売上・利益成長、及び5年間のROE の高さ等の総合的な実績に基づいて 優良な業績を収めている企業 200社を選出したもの  
当社は2023年にもForbes Asia's 200 Best Under A Billion に選定されました
- ✓ 今回選出された200社のうち日本企業は25社で プライム市場14社、スタンダード市場3社、グロース市場8社 半数以上がプライム市場上場企業の中から選定
- ✓ 選定に際しては、定量的な業績基準だけでなく、企業における深刻なガバナンス問題や疑わしい会計処理、環境問題、経営問題、法的トラブルを抱える企業を除外するなどの定性的な選別も行われている

# Sustainability Policy

トレイダーズグループの考えるサステナビリティ

これまで、わたしたちは様々なステークホルダー、すなわち株主、投資家、お客様、お取引先、社員、関係諸機関等と適切に協働し、もしくは支援を得ながら、企業として少しずつ成長の道を歩んでまいりました。当社グループは、上場会社として、また、様々な事業を営む企業体として、自己の利益だけを追求することなく、これからも、金融商品取引事業とシステム開発コンサルティング事業のそれぞれの活動そのものの中で、長期的に社会や環境に貢献しうるマテリアリティへの取り組みを進めてまいります。今後、当社グループの成長をけん引するために、ステークホルダーとの協働により、社会的価値と経済的価値を向上させ、または、創造する取り組みを推進することこそが、社会や環境面におけるサステナビリティを巡る諸課題に対する、わたしたちの義務と責任であり、使命であると考えています。

## 社会的な課題の解決のために

### 金融リテラシー向上への取り組み①

## 中央大学附属中学校・高等学校にて、金融経済教育に関する出張授業を実施 「投資はギャンブルではない」体験型ワークを通じて具体的に金融を理解いただく



中央大学附属中学校・高等学校において、高校生を対象とした金融経済教育に関する出張授業を実施

同校春季講習の一環として開催され、高校3年生約390名のうち希望者約120名が参加。

学生からは「投資はギャンブルではないことが理解できた」「複利効果の威力を実感した」「お金の仕組みを学ぶことは自分を守ることにつながると実感した」「体験ワークの際に、スタッフの方々が分かりやすく、丁寧に知識や考え方をご教授くださり、楽しみながら考察することができた」と非常に満足度の高いコメントを頂戴しました。

「お金の仕組みを学ぶことは自分を守ることにつながる」という受講生の声は、本授業の核心をご理解いただけた証であり、大きな励みとなりました。



## 社会的な課題の解決のために

### 金融リテラシー向上への取り組み②

## 足立区の中高生と保護者向けの金融経済教育に関する出張授業を実施 さらに参加者の方々から本社オフィスでジョブシャドウイング・プログラムを実施



足立区生涯学習センターにおいて、足立区在住・在学の中学・高校生と保護者を対象とした金融経済教育に関する出張授業を実施

足立区学校運営部青少年課が主催し、NPO法人JUKEが企画・運営を行うイベント『保護者と中高生のための体験型金融講座 ～ キャリア教育 × 金融リテラシー』の一環として実施

親子で共に学ぶ形式を通じて、金融リテラシー教育を具体的にお伝えできました。参加者の皆様からは「中高生にも分かるように噛み砕いて説明していただき、よく理解できました。体験ワークで実際にどう考えればよいか学びました」「親子で会話をしながら学べる貴重な機会でした。投資には企業を応援するという本来の目的があることを実感できました」と非常に満足度の高いコメントを頂戴しました。

今後も教育機関および行政とも協働して金融リテラシー向上に向けた活動を続けてまいります。



金融を、もっと面白く。



MISSION

ミッション

新たな価値を創造し続ける

Create the New Values

VISION

ビジョン

お客様から最も信頼される“FinTech”グループとなり、  
だれもが未来に投資できる社会を実現させる

金融を、もっと面白く。

traders

VALUE

# バリュー

トレーダーズ  
ホールディングス

関わるすべての“人”を大切にしながら、  
コンプライアンスとダイバーシティ（多様性）を尊重した経営で、  
変革にチャレンジし続ける

トレーダーズ証券

金融リテラシーの向上に貢献しながら、  
お客様と社会が求める新たなサービスの提供にチャレンジし続ける

FleGrowth

競争力のあるサービスを提供しながら、スピード感をもって  
安定的かつ革新的なシステム開発にチャレンジし続ける

## 本資料に関する注意事項

当資料に掲載されている事業戦略や目標数値、見通し等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断した内容であり、実際の業績等の結果は、今後の経済情勢や事業環境、為替市場の動向等、様々な不確定要素その他リスク等に起因して、記述とは大きく異なる可能性があります。

また、マーケットシェアや市場規模等の数値について一部当社の推計値が含まれており、調査手法等によって異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

### 本資料に関するお問合せ

トレーダーズホールディングス株式会社  
ir@tradershd.co.jp (IR担当)



金融を、もっと面白く。